

“風疹ゼロ”プロジェクト

日本周産期・新生児医学会は、“風疹ゼロ”プロジェクトに賛同します。

—2020 年度までに風疹流行のない状態に—

本邦では近年、2004 年の先天性風疹症候群児の多数例の出生に伴い、「風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言」（2004 年 9 月）が発信されたものの、その効果が十分に得られない中で 2013 年には再度風疹が流行し、多くの先天性風疹症候群の児が出生いたしました。

流行の発端および中心は、風疹感受性者（抗体陰性者）が多く残されている成人男性でした。この世代を中心に対策を取らないと、ふたたび風疹が流行するおそれがあります。

風疹流行を抑制し、先天性風疹症候群児の出生をゼロとするために、日本産婦人科医会が「“風疹ゼロ”プロジェクト」を立ち上げました。2 月 4 日を“風疹の日”とし、2 月いっぱい“風疹ゼロ”月間として、集中して情報発信、啓発活動をおこないます。

当学会はこのプロジェクトに賛同し、以下を会員へ周知します。詳細は日本産婦人科医会の該当ページをご覧ください。 →こちら (<http://www.jaog.or.jp/rubella/>)

1. 風疹にご注意！ 我が国では風疹流行のリスクはいまだに消えていません！
2. 妊娠 20 週頃まで（主に妊娠初期）に風疹ウイルスに感染すると胎児が先天性風疹症候群になるおそれが生じます。
3. 30～50 代の男性は風疹に対する免疫のない方が多く、風疹流行の要因となっています。
4. 海外流行地への渡航は風疹ウイルスに感染するリスクを上げます。渡航の際は万全の風疹予防対策、また帰国後は風疹発症リスクに対する適切な対応策をとってください。

<関連リンク>

依頼文「[“風疹ゼロ”プロジェクト ご協力をお願い](#)」（日本産婦人科医会）

[風疹予防啓発ポスター](#)（国立感染症研究所感染症疫学センター）

[風疹・先天性風疹症候群](#)（病原微生物検出情報 2015 年 7 月号）

[風疹をなくそうの会『hand in hand』](#)



“風疹ゼロ”プロジェクト を進めましょう

2月4日は風疹の日

国立感染症研究所 感染症疫学センター
<http://www.niid.go.jp/niid/ja/trans-isa.html>

